



■1階リビングダイニング。薪ストーブで家中が暖かい。



■リビングダイニングから2階口フトを見上げる。



■玄関。タイルは奥様が貼り、下駄箱はご主人が作った。



■セトリングスペースが緻密に計算された建具。

サエラホームさんの部材の精巧さには舌を巻いた。思った以上に精密にできていてピタッとはまる。セトリングを考慮した建具もよく計算されていて、素人にも組み立てが難しい。

「教えるノウハウがとにかくすごい。安心してできます。ギブアップしたらやってくれると言ってくれたことも大きかったです」

ログ壁の組み上げは、はじめ、奥様と二人で行った。中西さん曰く「楽だった」そう。5月初旬に始め、1カ月もしないで棟木まで上がってしまった。

基礎は無理せず業者にやってもらうことにした。自分たちで行うのはログの組み上げから。サエラホームさんのバックアップが心強かった。

「教えるノウハウがとにかくすごい。安心してできます。ギブアップしたらやってくれると言ってくれたことも大きかったです」

ログ壁の組み上げは、はじめ、奥様と二人で行った。中西さん曰く「楽だった」そう。5月初旬に始め、1カ月もしないで棟木まで上がってしまった。

社長さんと営業一人、県内の物件を案内して回ってくれた。それだけでなく、意中のプランを見に神戸まで車で連れて行ってくれた。

「ログハウスの話をたくさんしてくれました。親切に教えて下さるし、ダメなところはダメと言ってくれる。信頼できると思いました」

建築は、セルフビルドにしたい。でも、それまで、大工仕事はやることではない。まずは、道具を揃えるところから始めた。丸のこ、差し金、ハンマー……。サエラホームさんのマニュアルが役に立った。一つひとつ揃えるのが楽しい。



立山連峰の山懐でセルフビルドログハウスは家族の団結の証

立山連峰を眼前に美しいフォルム

富山空港に降り立ち、取材班が最初に目を見張ったのは、眼前に雄大に広がる立山連峰の山々だった。快晴の青空に、雪化粧の稜線。天に突き刺す剣岳の頂上。

「日本海側の冬では、こんなに晴れる日は珍しいんですよ」

そう語るの、待ち合わせの空港まで迎えに来て下さった施主の中西さん。郊外でしいたけの原木栽培を営んでいる。日本海から寄せる湿気を含んだ風は、北アルプスに遮られ雲を作るので曇りの日が多い。2月の県平均気温は約3度とそれほど寒くないが、雪が多い。

「今年、たまたま雪が少なかったのですが、例年、雪かきは冬の風物詩です。仕事は、毎朝、まず雪かきから始まりますね。その点、ログハウスは雪の重みには強いので、心強いです」

車で約30分。ご自宅に着き、車外へと降りる。そこで取材班は、心待ちにした景観をみることになる。

立山連峰とログハウス！

雄大な岩塊を背にラミネートログの直線が交錯する美しいフォルムとどっしりしたボリューム感。明るい茶と白のアクセントがよく映える。

「サエラさんのホームページを見た時、カッコイイ！これだ！と思った時、

「みんなで住める家にしたんです」

奥様も満足げに目を細める。

「教えるノウハウがすごい」

サエラホームさんのバックアップ

サエラホームさんとの出会いは、インターネットだった。のちに選択することになるプランに一目ぼれして、メールでカタログ請求。建物が見たいと、広島の本社を訪ねると、



■雄大な立山連峰、ちょこんと突き出る剣岳。

KIT HOUSE 1

中西宅 (富山県)



■外壁は全て奥様が塗った。



■2階寝室。



■みんなで熱くなるブラックジャック！



■キッチンカウンターはご主人の手作り。



■お兄ちゃんの部屋のバーカウンター。お客さんにご両親！



■ロフト。その向こうは吹き抜け上部。



■玄関から立山連峰を望む。

その日は、おいとましましたのは、もう薄暗くなったところのこと。まだ寒い外気に身を縮めて見たのは、もう黒い塊になった立山連峰の山懐で、まばゆいライトに浮かび上がる木の家。 「暗くしたくない」。奥様の発案でダウンライト24個をぐるり軒下に埋め込んだのだ。「ここが家族の団結の証なんだ」。そう表明しているようにも見えた。

のは、12月21日のこと。その年は、特別なクリスマスになった。木の家は、家族に憩いの空間を与えてくれる。薪ストーブの前は最高に居心地がいい。リビングは木の壁のサラウンド、みんなでカラオケ大会が楽しい。カードゲーム専用スペースも作った。お父さんは家具作りにいそしみ、お母さんは雑貨屋さんでインテリアを探るのが楽しみ。お兄ちゃんはお手伝いのご褒美でお父さんに作ってもらったバーカウンターがお気に入り。妹さんは、温かい2階のロフトでテレビを見るのが大好き。



■ロフトから吹き抜けを見下ろす。下はリビングダイニング。70インチ大画面は映画、カラオケに活躍。



■納戸の外に洗濯スペース。これもご主人の手作り。洗って、干して、取り込めばすぐ収納。

サエラホームのワンポイントアドバイス

◆中西様邸のRX-TW-204はセルフで施工するには非常に難易度の高いプランでした。にも関わらず、中西様は施工マニュアルを熟読され、マニュアル通りに忠実に施工されたので、プロの施工以上の出来栄になりました。

キットハウスアイテム RX-TW-204

1F 2F

延べ床面積：185.22㎡



思い思いの楽しみが広がる木の家で、家族の憩いの場

作業が進むなか、家族の物語も生まれました。多感な年ごろの息子さん。実は、建築が始まる前、親子の心が通い合えない時期が続いていた。ご両親は、朝早く起きたハウスの行き、帰りは遅い。食事もなかなか一緒に摂れない。ガスガスする気持ちが態度にも出てしまう。

お父さんが、息子さんに声をかけたのは、そんな時期のことだった。「セルフビルドを一緒にやろう」。それから、建築現場は親子の交流の場になった。

「その日いっぱい、黙々と作業して、終わったときに言ってくれたんです「明日も手伝うよ」。嬉しかったですね。それから夏休みの間、毎日一緒でした」

屋根は、みんなで作った。暑い時期、作業するのは早朝だけと決めた。みんな日焼けして真っ黒になった。奥様は、高いところが初めは恐かったけど、そのうちすっかり慣れてしまった。

大変だけど、楽しい。力仕事に精が出ると、馬力のつくものが食べなくなる。みんなでよく焼肉に通った。お父さんはビールがたまらない。求めていたのは、きっと、こんな日々だ。

そして、ログハウスが完成した